

## ICT を活用した授業力向上事業における授業研究協議会（鳥海小学校）に学ぶ

11月13日（木）、令和6、7年度「ICTを活用した授業力向上事業」のモデル校である鳥海小学校で、上記の研究会が開催されました。これまで鳥海小学校では、義務教育課指導主事等が訪問して提示授業を基にICTの効果的な活用による指導方法等の開発や指導力向上について支援し、協議を重ねてきました。今年度は「子どもが主役の授業づくり」を目指し、困っている児童の考えを生かした授業づくりについて共通理解を図って実践してきました。

当日提示された3年道徳と6年算数では、一人一人に寄り添った授業が展開され、児童も教師も授業を楽しんでいる様子がうかがえました。ここでは、ICTの活用を中心に紹介致します。

### 【3年 道徳「よい友達に-友情、信頼-】

指導者：加賀 まみか



本時は、「よい友達」について考える時間です。導入段階で児童の問題意識を高めるために、事前アンケート「友達ってどんな人？」の結果を電子黒板に示しました（写真1）。

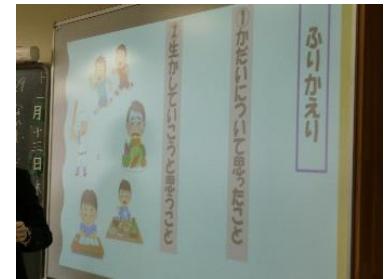
展開では、電子黒板を使用することで児童の表情を把握しながら、2回に分けて教材を視聴する場面を設定しました。児童にとって状況を理解しやすく、自分事として捉えられたものと思われます。その後、主人公の取るべき行動について学習支援ソフト「ハートメーター」を使用し

（写真1 アンケート結果） 考えを可視化しました。考えの結果がピンクと青の色で表現されことで、一人一人の考え方方に違いがあることを知ることができます。自分の立場を明確にしたことで根拠を示す事にも役立ち、多様な友達の立場を受容し理解を示しながら意見交流して徐々に学びが深まっていきました。そして、個々の考えの変容に気付かせるため、全体での話合いを終えた段階でもう一度「ハートメーター」を活用しました。自分だけでなく、学習前後のお互いの考え方をも確認することができました（写真2）。



（写真2 ハートメーターの活用）

終末の段階では、振り返りの視点と、生活場面を想起するヒントになるようにイラストを電子黒板に映し出しました（写真3）。児童は視点に沿った振り返りをシートに記入し、タブレット端末でシートの写真を撮って「個の学びの変容」に学習の足跡を残していました。これを児童はいつでも見返すことができるので、自分自身の成長を感じる手立てとしてとても有効だと思われました。



（写真3 振り返り）

### 【6年 算数「データの調べ方」本時8／15時間】 指導者：T1 板垣 菜々子 T2 小野 千晴

本単元は、家庭科の「鳥海みんな健康大作戦！」と関連させ「どんな食材がいいか分析しよう」というテーマに基づき、統計的な問題を解決することができるよう計画されています。その中で本時は、ヒストグラムのかき方や読み方を理解してデータの特徴を調べる時間でした。



〈写真4 モニタリング〉

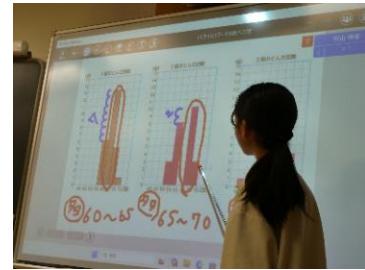
まとめる段階では、スクリーンに映し出されたヒストグラムを指し示しながら、書き込みをしたそれぞの考えを発表し合いました〈写真5〉。課題に対するまとめを行う時にはそれぞれの考えを比較しやすいように大事な部分を黒板に残し〈写真6〉、使い分けていました。



〈写真7 振り返り〉

見通す段階では、ヒストグラムの「一番多いところ」→赤、「範囲・まとまりや形」→青、「○回以上・その他」→色無しと色別してモニタリングし〈写真4〉、自分の取り組む視点をはっきりさせました。同時に友達の情報も共有できていました。

取り組む段階では、タブレット端末に書き込みをしながら特徴を個々にまとめ、それを片手に根拠を示しながら自由に友達と考えを交流することができました。



〈写真5 発表〉



〈写真6 まとめ〉

振り返る段階では、タブレット端末を利用して「どんな活動をして分かったか」→ピンク、「自分の考えから変わったこと・友達の考えで参考になったこと」→青、「疑問に思ったこと・知りたいこと・生活とのつながり」→黄と、付箋を色分けしYチャートに貼り付けてきました〈写真7〉。学びも共有し、振り返りを蓄積することができました。

〈写真7 振り返り〉

当日鳥海小学校に到着すると、間もなく厚い雨雲が広がっている中に二重虹が見られ、午後からの公開授業に期待をもたせる自然の演出がありました。研究会終了後には、見事に児童にも教師にも充実感がみなぎっていたように思います。有効な場面でのICTの活用を充実させることで、児童の学力が比例するように高まっていると感じたところです。

2026年度は全国学力・学習状況調査の中学校英語でCBT化、2027年度には小学校、中学校全ての教科で完全にCBT化となります。今現在の課題に目を向けることはもちろん、自校の児童生徒に育成したい資質・能力を再度吟味して指導に当たっていきたいものです。